

第40回北方圏国際シンポジウムに参加して

千葉大学大学院融合理工学府
修士1年 安宅 飛明

・紋別シンポジウムの感想

今回、紋別シンポジウムに参加し、分野を超えた交流の重要性を実感しました。私は鉱物分野に関心がありますが、会場では人文科学や生物分野など、さまざまな専門の方々と関わることができ、大きな刺激を受けました。特に印象に残っているのは、人文科学を研究されている方との交流です。研究背景をどのように組み立てるかという難しさについて話を伺い、自分の分野とは異なる視点で研究に向き合う姿勢に気づかされました。また、同年代の学生とお互いの研究スケジュールについて話す中で、自分以上に厳しい環境の中で努力されている方々がいることを知り、大きな刺激を受けるとともに、今後の研究へのモチベーションが高まりました。さらに、生物分野の方の話からは自然環境との関わり方について学び、専門が異なっても共通する課題や視点があることを実感しました。こうした交流を通して視野が広がり、分野を越えて学ぶことの意義を強く感じました。今回の経験は、今後の活動において大きな指針になると考えています。専門性を深めるだけでなく、異なる分野の考え方を取り入れることで、より柔軟で多角的な視点を持つことができると感じました。若手人材にとって、このような横断的なつながりは、新たな発想や挑戦のきっかけになるものだと思います。今後は今回の学びを活かし、自分の専門を深めながらも、積極的に他分野との関わりを持ち続けていきたいと考えています。

・今後の抱負

今後は、今回の経験を踏まえ、自身の研究活動において英語での発信力の向上にも取り組んでいきたいと考えています。発表自体や質疑応答の聞き取りについては対応できるものの、自分の考えをその場で的確に英語で表現する難しさを実感しました。今後は、日常的に日本語で考えた内容を英語でどのように表現するかを意識し、シミュレーションを重ねることで、より実践的な力を身につけていきたいと思っています。また、分野を問わずさまざまな研究者の考え方や研究への向き合い方を積極的に学び、自身の研究姿勢を見直していきたいと考えています。他者の視点に触れることで、自分の研究を客観的に捉え直す機会とし、より深い理解と成長につなげていきたいと思っています。



自身の研究発表の様子